

盛岡

震災の犠牲忘れない

盛岡二高 被災地訪問前に学習

盛岡市の盛岡尚志校長、生徒596人
岡二高(菅原)の1年生189人は24日、



真剣な表情で震災の教訓を学ぶ盛岡二高の1年生

本社記者の出前授業を受講した。同校は県の「いわての復興教育スクール(内陸)」に指定されており、30日に陸前高田市で行う被災地学習を前に東日本大震災の被害と教訓を学んだ。

報道部の金野訓子記者(34)が「忘れない」震災報道の現場から」と題し講演。震災後に掲載された約5万人分の避難者名簿、2016年から公開しているデジタルアーカイブ「犠牲者の行動記録」などを説明した。

震災から得た教訓として「とにかく逃げる。逃げたら戻らない。多くの犠牲は命を守るための教訓とすることこそ生かされる。家族や身の周りの人たちと防災を考えるきっかけをつくってほしい」と呼び掛け

た。

野田美優さんは「復興しようと言っただけだけでは、詳しいことを知らないでいるのは被災地の方々に失礼だと思った。来週の被災地学習では一つでも多くのことを学んできた

い」と力を込めた。畠山敏明教諭(53)は「災害はいつ起こるか分からない。震災学習を通じ、自分の身に置き換えて考える想像力、知識に基づいた判断力、行動力を持つてほしい」と願う。

この写真と記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。